

愛&ノハート

◆愛の家

- 利用者さんとの関わり
- 愛の家グループホームの歩みとこれから
- 地域活動の取り組みについて

◆成果に対する評価の充実を

◆あいハート須磨

もちつきボランティア報告

◆介護報酬改定

(介護保険制度改定)について

◆あいハート須磨

- 虐待防止研修のグループワークで感じたこと
- 相談業務での関わりをとおして

◆あいハート離宮前

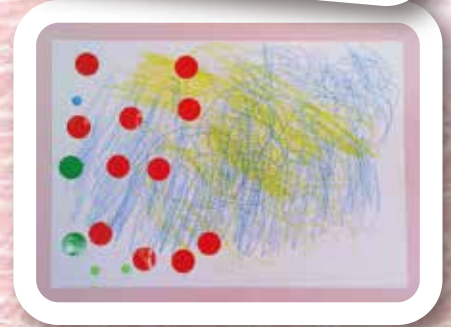
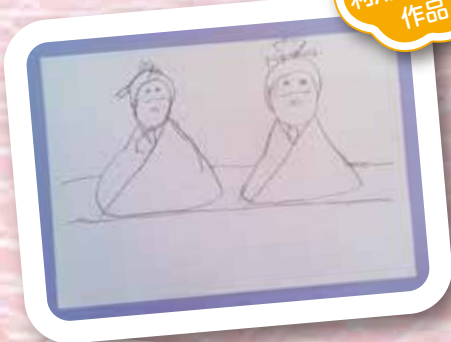
- 医務室のお仕事

2024 March

269号



愛の家
工房みさき
利用者さんの
作品



愛の家

利用者さんとの関わり

●かがやきスタッフ
福居 一基

愛の家「かがやき」(成人部)に勤務しています。福居一基(ふくいかずき)と申します。

愛の家は、知的障がいを持つ方々が安心して地域で暮らしていけるよう利用者さんそれぞれの生活の支援を行う経過施設です。利用者さんの日常生活を24時間体制でサポートし、利用者の皆さんが充実した日々を過ごせるよう様々な活動やイベントを行っています。また、地域との連携や交流も大切にしており、特にポ



ランティアさんと利用者さんへ交えた温かな関りが行われています。

私は愛の家に勤めて10年以上になりますが、利用者さんとの関りについて少しご紹介します。私の配属先は成人男性の方が生活されているところで、重度の知的障がいを持たれている方が多い部署です。重度の知的障がいを持たれている方にとって、言葉でのコミュニケーションはとても難しい傾向にあり、自らの意思を言葉で表したり伝えたりすることが非常に困難です。そのため利用者さんとの日々の関りにおいて私が特に大切にしていることは、どれだけ利用者さんの意思を理解し尊重してあげられるかということです。私の経験でも、利用者さんが

伝えたいことを相手に伝わったことがわかると、途端に満面の笑顔をみせてくれることが多々ありました。そういった関りを繰り返し自分の意思を理解してくれる人だと利用者さんから思ってもらえると、フロアへ入っただけでニコニコと笑顔になってくれることも増えてきます。

お互いの成功体験をとおし、徐々に私たちと利用者さんの関係性がより素晴らしいものへと発展していくことが私のやりがいのひとつであると感じています。

これからも基本に忠実に、引き続き利用者さんが充実した日々を過ごせるよう、スタッフ一同努力していきたいと思えます。よろしくお願ひします。



愛の家グループホームの歩みとこれから

●グループホーム主任
山口 真吾

愛の家「グループホームみさき」は、今年6月で開設から丸9年になります。

開設当初に入居された利用者さんも、なんと1名がグループホームでの生活を今も続けてくれています。愛の家グループホーム20年目に向け、これまでの歩みを振り返ってみたいと思います。

愛の家グループホームは、2005年、岬町深日地区の府営住宅を借り開設されました。その後、翌2006年3月に2軒目、2007年1月に3軒目、2010年に4軒目、そして2012年に5軒目が開設され、着々とその事業規模を拡大し岬町で唯一の障がい者グループホームとして愛の家から移行された方も含め「地域であたりまえに暮らす。」をサポートしてきました。

2017年、諸般の事情で1軒を閉鎖することになり、現在は4

軒での運営となっています。これまで長く続けてきたグループホームですが、現在課題のひとつとして挙げられるのが建物の老朽化です。その都度、必要な修繕は行ってきていますが、抜本的な対応が必要となるのもそう遠くはありません。また利用者さんや世話人の高齢化も避けて通れない道です。そういった諸問題の解決

に向け今年度から事業規模の拡大を含めた「グループホームの新設」を再検討しています。これまでのグループホーム20年、そしてこれからのグループホーム20年



に向け、今後もさらなる取り組みを行っていききたいと思えます。これからもご支援ご協力よろしくお願いいたします。

地域活動の取り組みについて

● miraリーダー

片岡 正年

このたび、石川県能登地域で発生した地震、羽田空港で発生した航空事故において被災された方々や事故に遭われた方々へ心からお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々とそのご家族、ご親族の方々に心からの哀悼の意を表します。

私たち相談支援センター愛の家「みらい」は、私と田中相談員の2名体制で頑張っていますが、今回は、田中相談員が中心となって開催しているお絵描き交流会についてお話ししたいと思います。

お絵描き交流会が生まれたのは、岬町の隣の阪南市に在住の利用者さんから受けた相談がきっかけでした。その利用者さんは、

「絵を描くことが好きです。しかし、実際に人と出会って関わることは苦手ですが、色々な方と交流を図れるような出会いの場が欲しい。」そんな相談からスタートしました。また、私の担当利用者さんのなかには、絵を描くことが好きな方が他にも数名いましたので、すぐにお声をかけてみました。更にNPO法人である「COCOいこっと」さんと、無料情報誌『凸凹という。』さんに協力していただき昨年7月からスタートすることになりました。

開催は2か月に一度、テーマ等を決めず好きな絵を描いていきます。中にはアニメのキャラを描く方もいれば、似顔絵を描く方、オリジナルの絵を描く方もいます。参加者は毎回10名前後で、愛の家の利用者さんたちも参加したのをきっかけに、愛の家に訪問して交流を図りました。また3月9日には「きらきらアート展」に展示される



ことになりました。交流する場はあるけれど、はじめの一步が踏み出せない方はたくさんいると思います。そんな方が、一步を踏み出せるきっかけ創りができるよう頑張っていきたいと思えます。

あいハート須磨

虐待防止研修の グループワークで感じたこと

●特養主任 岡田 英子

特養全職員46名を対象に、高齢者虐待防止・身体拘束廃止のための研修を2月14日、2月27日、3月11日に実施しました。講師は原田部門長が務めました。

研修では「高齢者虐待防止のセルフチェックリスト」を用いたグ



ループワークを実施し、虐待（不適切なケア）がどのような状況・状態の時に発生しやすく、どうすれば防ぐ（気付く）ことができるかを話し合いました。

まず、不適切なケアに繋がりがやすすい具体的な場面として、①立ち上がり頻回で転倒リスクが高い利用者の対応、②「部屋に連れて帰って」「トイレに連れて行って」といった要求を繰り返して、居室にお連れしてもすぐにフロアに戻って来られる利用者の対応が挙げられました。これらは、職員にとってストレスを感じる要因となっていることが分かりました。



次に、どう対応したら良いかを話し合いました。感情コントロールが必要のため、「心にゆとりを持って関わる」、「対応する職員を交代する」、「利用者の病気・性格を理解して個性の一つとして捉えて対応する」、「どのような状況（理由）で希望されている対応ができないのか、利用者に説明す

る」、「視点を変えて話を切り替えてみる」、「チームで情報共有しながら対応し、一人で抱え込むことがないようにする」という意見が出ました。

グループワークを終えた後、参加者からは「職員ごとに意見も異なり、他の職員も色々なことに悩みながら働いていることを知れてよかった」、「重いテーマにかかわらず、とても良い雰囲気職員同士の意見交換ができ、とても有意義な時間でした」、「他の職員の良い対応方法を取り入れていこうと思った」、「今後も不適切なケアにならないように心がけたい」との感想が聞かれました。

虐待が顕在化する前には、表面化していない虐待やその周辺の「グレーゾーン」と言われる行為があると言われています。さらにそれを遡っていくと、些細な「不適切なケア（言葉遣い・態度・職員間の馴れ合い）」の存在が放置されていて、これが蓄積し、エスカレートすることで顕在化していきます。

利用者が施設での生活に不安を感じず楽しく笑顔で過ごして

いただくためにも、今回の研修で学んだことを活かして、不適切なケアをしてないか職員同士が注意しあい、情報共有・連携しながら業務をしていきたいと改めて思いました。

相談業務での 関わりをおして

●あんしんすこやかセンター
保健師 立浪 雅美



西須磨あんしんすこやかセンターに入職して半年が経ちました。

以前は尼崎市の地域包括支援センターで保健師として勤務していたため相談対応の経験はありますが、神戸市独自の制度など、異なる部分も多くあり日々勉強しながら仕事をしています。

高齢者の方に関わらせていただき、お話を伺う中で心がけていることは、その方がこれまでどんな生活をしてきて、どんなことがお好きで、どんなことを大切にしているのかを丁寧に聞き取るこ

とです。お体の病気や怪我、認知症などにより困りごとができたことが相談のきっかけであることがほとんどですが、困りごとだけに着目して対処方法を考えるのではなく、その方の長い人生の歩みを知り価値観に触れることで、その方らしい生活を送れるためにどう支えていけるかを考えていきたいと思っています。

「支える」とは言いましたが、実際には私が高齢者の方に励ましを受けたり、気づきを与えられたり、支えていただいていることが多いです。相談業務にあたりながら、関わる方々に日々育てていただいていると感じます。

相談によってはすぐに解決することが難しく、長い時間をかけて関わっていく必要があることもあります。そんな時、民生委員さんや地域住民の皆様にお力添えいただきたい。解決の糸口をつかめることも多くあります。地域の力の素晴らしさ



を実感するとともに、私も少しでも地域の皆様のお役に立てるよう、顔の見える関係をつくっていただけらと思います。「相談して良かった」と思っていた対応ができるよう、これからも頑張っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

あいハート離宮前

医務室のお仕事

● 医務職員二名

現在、あいハート離宮前には4名の看護師が在籍しており、入居者様の毎日の体温や血圧の計測、お薬の管理、お通じの調整、日常の健康に関するご相談、夜間のオンコールなどに従事しています。



他に、施設往診医への情報提供や診察・予防接種補助、定期受診の付き添いや、急な体調不良の際の受診にも対応しています。3月

と8月には健康診断もあり、すべての入居者様を対象に採血・心電図・胸部レントゲンを半日かけて行なう「一大イベント」となっております。

あいハート離宮前では、施設での看取りケアにも対応しており、これまで様々な方の最期に関わらせていただきました。点滴や酸素投与などの医療行為は行なわず、食事や入浴など可能な限り普段通りに過ごしていただき、自然な形で最期を迎えられるよう職員一丸となってお手伝いをさせていただきます。コロナ禍以降は今も面会を禁止している病院が多く、一度入院されてしまうとなかなか会えないという状況が続いていますが、当施設では看取り期に入った方は面会を制限していません。入居者様とご家族様が過ごす時間を大切に考えています。ご家族様から「最期があいハートで良かった。」と



のお言葉を頂戴しております。

入居者様やご家族様からの「ありがとう」の感謝の言葉や、なげない日常やイベント時の入居者様の笑顔に、やりがいを感じています。

これからも介護・厨房・清掃・事務など他職種と連携をはかり、入居されている皆様が健康で安全な生活を送っていただくためのお手伝いに努めてまいりたいと思います。



成果に対する評価の充実を

■ あいハート離宮前施設長 古崎 徹

4月に控えた3年に一度の介護保険制度の

改正は、団塊の世代が後期高齢者となり社会保険費や人材の不足が深刻になると予想される

いわゆる2025年問題を控えた殊更に注目度の高い改正です。

既に国からは制度改正の大綱や報酬の改定率がプラス1.59%との告示がありました。このうち0.98%は介護職員等への支給が要件の処遇改善に係る報酬で実質は残りの0.61%ですから、昨今の物価上昇を考慮しますとマイナスともいえる厳しい内容です。

改正の本身は、処遇改善に係る加算の一本化など煩雑であった制度の整理が進んだことに加え、新たな加算による適正配分の進展や医療連携の充実などが図られた一方で、介護保険制度施行当初からの構造的な問題はまたしても抜本的な見直しがされず、失望を禁じ得ない内容でした。

ご承知の通り、高齢者施設の介護報酬は要介護度が重いほど高くなっています。要介護度は「介護に要する時間」によって決まりますから、サービスの対価としては当然の設定です。

ところが、いざサービスの提供が始まって献身的にお世話をさせて



いただいた結果、ご利用者様の要介護度が下がりますと連動して報酬も下がってしまうのです。

この事業者や職員の努力が報われず、より良いサービスが十分に評価されないという問題に関しては、サービスの提供や体制を評価する「加算」の導入により部分的には改善が図られていますが、「成果」の評価は不十分だと考えています。国はかなり以前からV-S-I-TやCHASEというデータベースにより科学的かつ客観的な「成果」を収集する仕組みを導入し、前回の制度改正ではそれらをL-I-F-Eに統合して3年経過しようとしています。一向に改善の兆しは見えてまいりません。

私はこの国の介護サービスを高い水準に維持するためには一刻も早くこの問題を解消しなければならないと考えています。ICTなどDXを推し進めようとする時流にあっては尚更のことです。

合理的な評価基準の策定に時間を要しているのであれば、まずは経過的にでも「急性の病気や怪我からの治癒・回復など一定の要件に該当する場合を除き、高齢者施設への入居後は要介護度が下がらず、差分はインセンティブとする。」くらいの大胆な改革を試みてはどうでしょうか。奇想天外な発想だと思われるかもしれませんが、それほどまでに人手不足など現場の状況は逼迫しています。

加齢に伴う衰えという「自然の摂理」に抗う努力やサービスは十分合理的な根拠であり、もっと評価されてしかるべきではないでしょうか。

あいハート須磨

もちつきボランティア報告

2024年1月11日(木) あいハート須磨にてもちつきを実施しました。

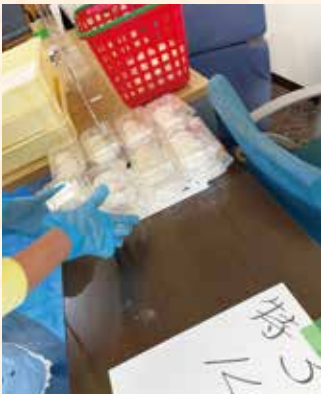
ここ数年は新型コロナウイルスの影響もあり、開催見合わせが続いておりましたが、徐々に新年にふさわしいイベントを再開できました。

当日は、NTT退職者の会から約10名の方にご参加いただき、もちつきとついた餅を丸める作業をお手伝いいただきました。

もちつきは、慣れた手順で臼に蒸したのもち米を入れ、よくこねたのち、順番に杵を使ってもちをつきます。

ボランティアの皆さんはとてもパワフルで、リズム良く何度つかれてもほぼ休むことなく黙々と続けられていました。逆に、手伝いに参加した職員の方が力みすぎてうまくつくことができず、腰が痛くなることもありました。「腕に力が入りすぎている。それでは続

作業の様子



んよ。」とアドバイスもいただきました。想像と実際にやってみるとは違い、良い体験にもなりました。つき終わった餅は手際よく丁度いい大きさに小分けして丸められ、タッパーに分けてくださいました。つきたてのおもちはとても

柔らかく、おいしくいただきました。

今後も、利用者さんが喜ぶようなイベントの再開を願います。



ご支援をくださった方々

《12月》

寄付金

NTT労働組合 西日本本部 様
荒木 温子 様
斉藤 文子 様
安崎 貞宣 様

後援会

NTT労働組合 西日本本部 様
NTT労働組合ドコモグループ本部
コムウェア特別支部西日本分会 様
NTT労働組合持株グループ本部
NTTファイナンス関西分会 様

寄贈品

多田 裕司 様
(計8件)

《1月》

寄付金

NTT労働組合退職者の会
大阪支部協議会 様
大西 一只 様
(計2件)

介護報酬改定(介護保険制度改定)について

愛&ハート263号(2023年2月)では、「2024年度介護保険制度改正の動向について」と表し、2024年4月の介護保険法改正に向けて議論された7つの論点がどのような方針となったのかをご紹介します。今回は1月22日に厚生労働省から発出された「報酬改定における改定事項について」より、改定内容についてご紹介します。

今回の報酬改定の主なポイントは人口構造や社会経済状況の変化を踏まえ、「①地域包括ケアシステムの深化・推進」、「②自立支援・重度化防止に向けた対応」、「③良質な介護サービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり」、「④制度の安定性・持続可能性の確保」、この4点が基本的な視点として実施されます。改定率は1.59%プラスとなることが決定しました。内訳としては、1.59%のうち0.98%が介護職員の処遇改善を目的として、また残り0.61%が介護職員以外の処遇改善を目的として引き上げられます。1.59%の引き上げ以外にも、光熱水費の基準費用額増額等による介護施設の増収を理由に、0.45%相当の引き上げ効果が見込まれており、



合計で2.04%相当の引き上げとなることを見込まれています。

なかでも注目なのが、「③良質な介護サービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり」の視点について、介護

職員に対する処遇改善加算も大きな改定を迎えることとなります。担い手不足が深刻化する介護職員を確保するため、処遇改善に充てる加算を引き上げると同時に、2012年(平成24年)に創設された「処遇改善加算」、2019年(令和元年)経験技能のある介護福祉職員に重点的に加算額の配分を行う「特定処遇改善加算」、2022年(令和4年)、賃金改善を目的とした「ベースアップ等支援加算」、これら3つの加算制度を「介護職員等処遇改善加算」へ一本化されます。これにより、ご利用者にとっても負担の理解を得やすくなることや、煩雑であった事務作業が簡素化されることに繋がります。

介護報酬の改定は、3年ごとに行われます。社会情勢や環境の変化に対応し、利用者の生活の質の向上や介護現場の生産性向上を目的としています。2025年には団塊の世代すべてが75歳を迎えることから、これまでも介護報酬改定や制度改定により、地域包括ケアシステムの構築が進められてきました。しかし、今後高齢者人口がピークを迎える2040年頃に向けて、「85歳以上人口割合の増加」、「生産年齢人口の急減」といったさらなる人口構造の変化や、それに伴う社会環境の変化が見込まれており、引き続き見直しが必要となります。



「皆様の声」受付窓口

全電通近畿社会福祉事業団では、社会福祉法第82条の規定に基づき、利用者家族の皆様等から「苦情」やご意見に適切にお応えするための体制をとっています。面接・電話・書面等のようなかたちでも結構ですので、遠慮なく、お気軽にお申し出ください。

- 愛の家 072-494-0123
- あいハート須磨 078-737-2525
- あいハート離宮前 078-731-2130
- 法人本部 06-6458-5723

【発行】

社会福祉法人 全電通近畿社会福祉事業団
〒553-0003 大阪市福島区福島 3-1-73
TEL 06-6458-5723

Website <https://www.zendentu-kinki.jp>

Facebook <http://www.facebook.com/zendentukinki>

E-mail jigyodan@silver.ocn.ne.jp

【発行人】

理事長 橋本 寿樹

